

平成25年

全国山火事予防運動

春先は、一年間の中で、最も山火事が心配される季節です。林野庁は、消防庁等が実施する「春季全国火災予防運動」の実施にあわせて、3月1日～7日を中心に「全国山火事予防運動」を実施します。



山の火事 もとは小さな火種から

山火事予防運動実施中

主唱：林野庁・消防庁

イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博
イラスト：熊野 博



岩手県盛岡広域振興局林務部提供



新潟県五泉市消防本部提供

例年、冬から春にかけて、山では枯葉や枯草が多くなることに加え、空気の乾燥や季節風あるいはフェーン現象などの気象条件等から、山火事発生の危険性が高い時期となります。山火事はいったん発生するとその消火は容易ではなく、一瞬にして貴重な森林を焼失するとともに、その回復には長い年月と多くの労力を要することとなります。

とりわけ、これから暖かくなるにつれ、山に入る機会も多くなりますが、特に、空気が乾いている日や風が強い日にはたき火、火入れをしないなど、火の取扱には十分な注意が必要です。

昭和44年から実施されている「全国山火事予防運動」の平成25年のポスターには茨城県つくば市桜中学1年の高巣太吾さんの作品が、標語には長崎県いさはやしなかまたかつひろさんの作品がそれぞれ選ばれました。

本年の統一標語は「山の火事 もとは小さな火種から」です。



薩摩川内市消防局出初め式
(薩摩川内市消防局提供)



山火事予防運動パトロール
(秋田市提供)

■ 具体の実施内容

(1) ハイカー等の入山者、森林所有者、林内及び森林周辺の農地及び作業現場の作業者、地域住民、小中学校の児童・生徒等を対象に次の重点事項の啓発活動を実施します。

ア 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと

イ たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火す

ウ 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと

エ 火入れを行う際、許可を必ず受けること

オ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いながら必ず消すとともに、投げ捨てないこと

カ 火遊びはしないこと

キ 駅、市町村の庁舎、学校、登山口等への警報旗、山火事予防ポスター等の掲示やテレビ、ラジオ、有線放送、

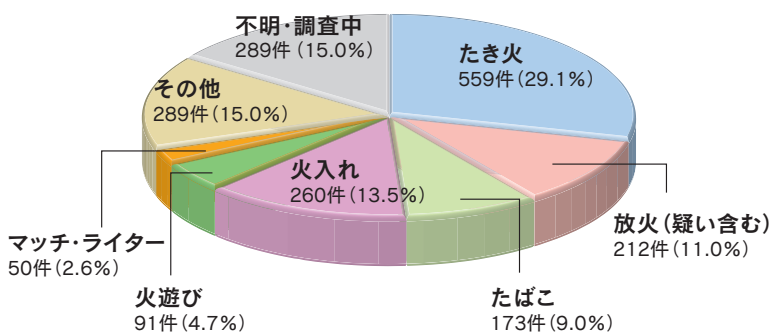
新聞、インターネット等の各種広報媒体の活用等により、入山者、地域住民等に対し山火事予防意識の高揚を図ります。

(3) 火災警報発令中など、火災の発生しやすい時期には、関係機関が協力して、住宅地等に近接する森林での重点的な森林パトロールを実施するなど森林の保全管理体制の強化を図ることにより、火災の未然防止、早期発見に努めます。

(4) 消防機関等と森林所有者等が一層の連携を図るとともに、初期消火を中心とする消防訓練、研修会、予防及び消火資機材等の適切な点検、管理等を実施し、地域の実情に即した予防対策を計画的に講ずるよう努めます。

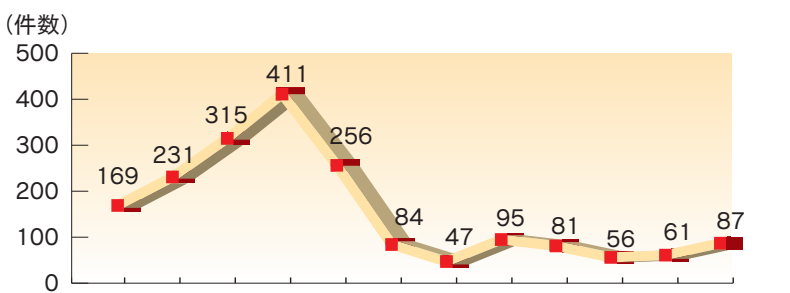
(5) 地域住民、森林所有者等による山火事予防組織の育成強化を図るとともに、これらの組織が婦人(女性)防火クラブ等のいわゆる民間防火組織と連携を図り、予防活動を行うよう要請します。

■ 原因別出火件数(平成19年～平成23年の平均)



資料：消防白書より

■ 月別発生件数(平成19年～平成23年の平均)



資料：消防白書より

■ 林野火災の発生状況(平成19年～平成23年)

林野火災は過去5ヶ年平均で年間約2千件発生し、焼損面積は約11百ha、損害額は約4億9千万円となっている。

区分/年次	H19	H20	H21	H22	H23	平均
出火件数(件)	2,157	1,891	2,084	1,392	2,093	1,923
焼損面積(ha)	717	839	1,064	755	2,071	1,089
損害額(百万円)	237	606	521	71	1,017	490

資料：「消防白書」より

注：H23の焼損面積等が大きく増加したのは東日本大震災の際の林野火災の影響である。